

具体的手法の検証

① 趣旨説明

実施内容

冒頭に本例会の目的である「感謝を伝える場」であることを明確に説明し、例会全体の流れと狙いを共有した。

効果

参加者がテーマを理解した上で例会に臨むことができ、感謝の言語化・行動化がしやすい空気づくりに寄与した。実際にアンケートでは 97%が「感謝の気持ちで行動できた」と回答した。

考察

一方で、設問の解釈揺れが生じたことから、趣旨説明は暗記より「確実に伝えること」が重要であり、原稿を手元に置くなど、伝達精度を担保する必要性が明らかになった。

② 感謝動画

実施内容

会員全員から「ありがとう」の動画を収集し、委員会ごとの活動写真と合わせて構成した。

効果

例会冒頭から感謝の気持ちを可視化でき、会場全体が温かい空気に包まれた。

対内では「感謝を行動に移せた」「支えに気づけた」など多くの肯定的意見があり、対外でも「メンバーの想いが伝わった」と 100%が回答した。

考察

動画による視覚的アプローチは感情の共有に大きな効果を発揮した。

一方で、動画に偏りすぎると内容理解が難しい参加者もいるため、補足説明との組み合わせが最適である。

③ 活動紹介スライド

実施内容

年間の例会・事業のビフォーアフターや裏側の努力を写真・資料を用いて紹介した。

効果

対内では「青年会議所活動を理解していただけたか」の設問で 87.9%が「はい」と回答。

対外でも 92.3%が「活動内容や想いを理解できた」と回答した。

写真や LINE のやり取りなど“リアルな裏側”が、JC の価値を伝える効果的な要素となった。

考察

一部参加者から「情報量が多い」との指摘もあり、初参加者を想定した導入説明があれば理解度の向上に寄与した可能性が高い。

④ 歓談(席次:委員会ごと)

実施内容

委員会単位で席を設け、家族、同伴者とメンバーが交流し、想いや感謝を直接伝えられる時間を確保した。

効果

感謝を伝える行動の実践に直結し、対外アンケートでは「メンバーの想いが伝わった」と全員が回答。「普段見られない姿を見られた」「誇りに思った」という家族からの声も多く、関係構築の中心的役割を果たした。

考察

歓談時間の価値は非常に高かったが、託児環境の不足により「子どもから目を離せず、歓談に参加できない」ケースが発生した。

環境整備が不足すると、歓談の価値そのものが損なわれるため改善が必要。

⑤ アトラクション(ビンゴ)

実施内容

大人も子どもも楽しめるビンゴゲームを実施し、会場全体の一体感を醸成した。

効果

会場が盛り上がり、緊張が解けることで交流が活性化。

自由記述にも「楽しかった」「よい空気感だった」と複数記載があり、コミュニケーションの促進に大きく寄与した。

考察

単なる余興ではなく、関係構築のための効果的な要素であったと言える。

⑥ 委員会まとめ(委員長スピーチ)

実施内容

一年を振り返り、支えてくれた方々への感謝と青年会議所運動の意義を言語化し、言葉として届けた。

効果

委員会まとめの内容が家族へ深く響き、複数の参加者が自由記述で「メッセージが印象的だった」「想いが伝わった」と回答した。対内では、活動意欲の向上につながったと回答するメンバーも多かった。

考察

スピーチは例会の核となる要素であり、言葉の力が関係構築に直結することが明確に示された。